



医学部だより

第28号

2014.4.1



国立大学改革プラン

医学部長 苛原 稔

昨年末に文部科学省大学教育審議会から国立大学改革プランが公表されました。少子化の進行で800を超える日本の大学の多くが定員割れを起こしている中で、88国立大学が生き残りこれからこの日本を支える人材養成に本腰を入れるために危急に進めなければならない改革を進める指標となるものです。

これに関しては、国立大学が法人化した平成16年の第一期中期計画時に進めなければならなかった事柄と思いますので、遅きに失する感はいなめませんが、教育の再生が声高に叫ばれ、再度教育立国を目指す日本において、人材、インフラが整っている国立大学を最大限に利用することは、借金が1000兆円を超える事態となった我が国では必要なことと思います。すべては教育の再生、そして明治以来、さらには第二次世界大戦の復興期を通じて我が国の再生のエンジンであった国立大学の再生は極めて必要性が高いように思います。

徳島大学でも3月に徳島大学改革プラン(案)が提示され、平成26年度からの徳島大学の改革の方向が示されようとしています。

今回の改革プランの重要項目として、ガバナンス検討委員会が設置されて、特に学長の指導性の強化、学部長の指名制度、教授会の改革など、短時間に重要な改革が議論されています。ポイントは学長の指導性の強化、特に組織運営における学長の権限の強化です。強い権限と責任を持った学長のもとに、迅速に改革を進める必要性が強く指摘されています。

それから蔵本地区では、ヘルスバイオサイエンス研究部の組

織改編、疾患酵素学研究センター、疾患プロテオゲノム研究センター、藤井節郎記念医科学センターを統合して、より先端的、効率的な研究センターの新設が検討されています。その中で、医学部のあり方も大きく変わって来るものと想像します。

徳島大学にとってもう一つの危急の課題は、「グローバル化を迅速かつ大胆に進めなければならない」ということです。その一環として、医学部においては早急に3学科ともにグローバル化へ向けて、カリキュラム変更や支援体制強化を行い、素晴らしいグローバル化教育ができる体制を整えたいと思います。特に、外国人教員の導入や3学科にグローバルコースを設けること、もちろん国際化を進めるということですが、今求められている「グローバル化」は、各分野に多数の外国人留学生を受け入れるとともに、逆に徳島大学医学部から世界に羽ばたく人材を養成すること、世界に挑戦する研究者を輩出することが重要となります。そこで、医学科の学生には米国医師免許にチャレンジする挑戦心溢れた学生を増やしたいと思います。もちろん、医科栄養学科や保健学科でも同様に諸外国での試験に挑戦する学生を増やしたいと思います。そのために、医学部の総力を挙げてグローバル化に向けた整備をしたいと思います。特に、英語力の強化が必要になります。これからの半年はこの方面に力を入れていきたいと思います。

医学部を取り巻く環境は日々変化していきます。それを見据えて、将来への布石を打つ時期と思います。どうぞ、ご支援を賜りますようお願いいたします。

目次

CONTENTS

医学部長挨拶	1	蔵本祭	8
新入生のみなさんへ	2	数字で見る医学部	9
先輩から医学部紹介	4	学遊抄	10
学友会活動	5	新任教職員あいさつ	11
医学部行事予定	5	第60回徳島大学解剖体慰霊祭	11
外から見る医学部	6	退職者ご挨拶	12
徳島医学会報告	7	新任准教授紹介	13
受賞者紹介	7	受賞者紹介	14



新入生のみなさんへ

医学科長 安友康二

ご入学おめでとうございます。

徳島大学医学部は四国で最初の医学部として設立され、60年以上の歴史を持ちます。その歴史を継ぐみなさんの将来に大いに期待しています。

医学を取り巻く現状は日々進化しており、皆さんが医師、医学研究者あるいはそれ以外の医療関係者として働くころには、現在よりはるかに広範囲の知識や技能が必要とされる時代になっていると考えられます。さらに、ヒトゲノム情報を利用した医療、生殖医療、トランスレーショナルリサーチなどにおいて、高度な倫理的見識を持つことも要求されます。その時代の

中で、皆さん一人一人が医学者として個を確立して活躍するためには、学生時代に体系的な医学知識を習得しておくことが重要です。徳島大学医学部では他の大学にはない基礎医学実習プログラムやスキルスラボを用いた臨床実習があり、医学を学ぶための環境が整備されていますのでそれらを最大限に活用してください。また優れた医学者になるためには、医学という大きな領域の中で生涯をかけて献身的な精神を持って医療に貢献するという強固な意志と姿勢が必要になります。6年間の学生生活で、医学を知ること、そして医の心を育むこと、その二つを目標としてください。



新入生の皆様へ

医科栄養学科長 宮本賢一

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。厳しい受験生活を乗り越え、晴れて医学部医科栄養学科へ入学された新入生の皆さんに、心から敬意とお祝いを申し上げます。21世紀の超高齢社会ではヒトの健康を支える栄養学が果たす役割は益々大きくなっており、徳島大学医学部栄養学科は、わが国の栄養学教育と研究拠点そして管理栄養士養成施設として50年間にわたって栄養学を学ぼうとする人々を受け入れてきました。数多くの卒業生たちは管理栄養士や栄養学教育研究者として全国で活躍しています。しかし、

医学を基盤とする臨床系の栄養学は欧米に比べて未だに大きく立ち後れています。そのため、栄養学科は、平成26年度(2014年度)から「医科栄養学科」に改組いたしました。入学した皆様は、医科栄養学科の1期生として、より高度な臨床栄養学を学び、世界に羽ばたく人材として期待されております。すでに私たちは、新しい教育カリキュラムを準備し、充実した臨床教育実習体制を構築しております。新入生全員が世界のリーダーを目指し、大きな志を抱き、新しい医科栄養学科を発展させてくれることを期待しております。



ようこそ！徳島大学保健学科へ

保健学科長 近藤和也

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは保健学科13期生になります。医療人になることを目指して、苦しい受験勉強をがんばって来られたと思います。本当にご苦労様です。これからの大学生活は、皆さんの“夢”を大きく育てる楽しい期間です。伸び伸びと頑張ってください。保健学科に入学された皆さんは、将来の職業として、看護師、保健師、助産師、養護教諭、診療放射線技師、臨床検査技師を希望されたと思います。私たちの大学は、四国地区の国立大学で唯一、学部から大学院博士課程まで一貫した教育体制が整っています。さらに、蔵本キャンパスには、医学科、医科栄養学科、歯学部、薬学部が集まり、多様な医療人を育成する“総合大学”となっており、高度専門医療人を育

成する最高の環境があります。学部卒業後は、大学院博士前期(修士)課程(2年)と大学院博士後期課程(3年)が設置され、専門看護師、助産師、養護教諭(専修免許)、放射線治療専門診療放射線技師、医学物理士、超音波検査技師等の高度専門職医療人の育成をしています。国際的視野から保健医療を担うことができる医療人を育成するため、フロリダ・アトランティック大学(米国)やヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学(フィンランド)と学術交流し、短期留学を行っています。さらに、今年から外国人の教授が看護学専攻に加わり、卒業後、海外に留学したり、外国の免許を取得できる教育プログラムを推進していきます。若い皆さん方が、各分野におけるリーダーになられ、徳島、日本だけでなく世界の保健・医療を牽引されることを願っています。

***** 新入生の皆さんへ *****



医学科4年次 宮崎 純志

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。ほとんどの方が長い受験勉強の日々を終えて一安心しているでしょう。しかし、これからは今までとは全く異なる生活が待っています。期待も大きいかと思いますが、きっとほとんどの方が

が大学生活について不安も抱いていると思います。

でも、今現在大学生活を送っている先輩も同じように最初は不安を抱いていました。そんな中で私が一番大事だと感じたことは新しい出会いです。大学生活では勉強以外にも様々な活動をする時間がたくさんあります。サークルやバイトなどに皆さんも積極的に参加して色々な先輩や友達と出会ってください。それらを通して得られた人間関係や経験は大学生活だけでなく一生の宝物になるはずです。

また、話は変わりますが大学とは当たり前ながら勉強をするところでもあります。ここでは高校の時と比べて広く深くのことを学びます。また、学年が上がり講義が専門化するにつれ難易度は上がります。テストも多く、レポートもあります。大学では遊んでばかりでは進級できないことも注意してください。

少し不安になるようなことを言いましたが、大学の先生も高校と同じように質問すれば必ず教えてくれるので安心してください。わからなければわかるまで質問しましょう。ここに述べたように勉強や課外活動など、大学生活は本当に楽しいことも苦しいこともあります。皆さんの大学生活が充実したものになることを願っています！



栄養学科4年次 荒木 迪子

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。おそらく徳島大学に入学できる期待や喜びと同じくらい、大学という新しい環境での生活がスタートするという不安で胸いっぱいになっているのではないのでしょうか。そんな皆さんに、私

なりに4年間の経験を基にアドバイスをしたいと思います。

大学生活には想像しているよりも膨大な「自由な時間」があります。私自身、部活動やバイトなど自分がやりたいと思った事に費やすようにしていますが、この「自由な時間」をどのように過ごすかは、実はかなり難しいのです。また、この「自由な時間」というものは1、2年生の時に多く、3、4年生になってしまうと、その膨大な長さを知り、うまく使えなかった事を後悔してしまうものです。

皆さんは今、大学生としてのスタートを切ったばかりです。大学に入る事で、自分の興味のある分野が深く知れるチャンスと共に、そうした事以外に「自分がやりたい事」をするための「自由な時間」を手にし、使うチャンスも与えられたのです。新しい事、今まで続けていた事、色々思い描いていると思います。そうした事に積極的に「自由な時間」を使ってください。

また、大学という所は何か与えられるのを待っている場所ではありません。自分の足で動きまわらなくては得る物は少ないと思います。

皆さんがここ徳島大学で充実した素敵な大学生活を送れることを願っています。



保健学科看護学専攻4年次 岡田 華果

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学には色々なタイプの人がいるので、自分のしたいことや興味のある分野に関して、必ず同志がいるはず

です。そういう人を見つけて、めいっばい楽しんだらいいと思います。ぜひ、FunnyだけでなくInterestingの方の面白いことを見つけて下さい。やってみたくことは片っ端からトライしてみてください。何をしても、失敗しても、全ていい経験になります。後から思い出した時に、自分を多面的に成長させることができたなと思える4年間を過ごせることを祈っています。



保健学科放射線技術科学専攻4年次 原 拓巳

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。長かった受験生活に終わりを告げ、これからの大学生活に希望を抱いていることと思います。皆さんの先輩として私が言えることは、この4年間は

あっという間に過ぎていくということです。勉強に部活、サークル活動にアルバイトなどいろんなことをしているうちに、時間はあっという間に過ぎ去っていきます。その限られた時間の中で、先輩や同級生、後輩などとのつながりをどんどんつくっていきってください。大学生活では、高校の時以上に人とのつながりが大事になってくると思います。是非とも、いろんな人とのつながりを持って、4年間の大学生活を目一杯楽しんで、いろんなことを学んでいってください。



保健学科検査技術科学専攻4年次 片山 寿貴

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。いよいよキャンパスライフが始まりますね。新たな環境でのスタートということで、楽しみでもあり、また不安でもあると思います。

検査技術科学専攻では、講義で知識を、実習で技術を身につけていくのですが、学年が上がるにつれてその講義や実習が増え、自分の時間を確保するのが難しくなってきます。そのため比較的時間のある1年次から、いろんなことをがんばってくれたらと思います。

大学は高校よりも、出会いや挑戦のチャンスに恵まれています。勉強をはじめ、部活やバイト、課外活動やボランティアなど、いろんなことに挑戦するなかでいろんな人に出会います。4年間って、長いようで案外短いんです。なのでみんなも自分から積極的に挑戦して、人との交流を大切にして、有意義な4年間にしてほしいと思います。



先輩から医学部紹介

新入生のみなさんご入学おめでとうございます

講義について

医学科4年次 堀 貴洋

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。これから皆さんが毎日受講する、大学の講義について紹介したいと思います。

まず高校と大学では講義の形態が異なります。高校時代は、決められた講義に朝から夕方まですべて出席していたと思いますが、大学1年生では、受たい講義を好きを選んでスケジュールをある程度自分の好きなように決めることができます。講義が午前中で終わる日を作ったり、時間を自由に使える点が大きな特徴です。空き時間も有効に使って、充実した毎日を過ごしましょう。

大学の講義は、大きく分けて2つあります。自由に選択できる「教養科目」と各科ごとに決められている「専門科目」です。1年生の時は、ほとんどが教養科目で、大半を常三島キャンパスで受講し、週1～2日、蔵本キャンパスで専門科目を受講します。教養科目は、「歴史と文化」「人間と生命」「生活と社会」「自然と技術」という4つの分野や、英語、ドイツ語などの語学、数学、生物学、物理学など幅広く学ぶことができます。私は、以前から興味を持っていた経済学や

社会学などの講義を受けて、高度な内容をわかりやすく教えていただけて幅広い知識を得ることができました。医学と関係ないと思われることでも、必ず将来みなさんの役にたつことばかりなので、積極的に受講して多くのことを学んでください。受講に関して分からないことがあれば、先輩が実体験をふまえたアドバイスをしてくれると思うので、どんどん相談してみましょう。

最後になりますが、大学生は時間がたっぷりあるので、色々なことに挑戦して、充実した、楽しい、実りある大学生活をスタートさせてください。



大学生協

栄養学科4年次 梶 浦 大 資

大学生協は、これから新入生の皆さんが大学生活を送っていく中で様々な面でサポートしてくれる組織です。今回は、大学生活で必ず利用する食堂と生協店舗について紹介したいと思います。

まず、食堂について、昨年まで蔵本キャンパスには常三島キャンパスにある生協食堂がなく、食事のバリエーションの幅が限られていました。しかし、昨年より食堂と店舗がリニューアルされ生協食堂（キッチンさくら）が出来たことで学生達の食事の楽しみが増えました。お昼時になると毎回行列ができ、沢山の人が利用しています。また、営業時間が8:00～20:00なので生協食堂で朝食や夕食も摂ることができます。一人暮らしの場合であると、金銭面や時間面で手軽な菓子パンやインスタント麺等の加工食品で済ます人や朝食自体を抜きにしてしまう人が多いのですが、生協食堂では数十円単位の様々なおかずが揃えられており選び方次第で、安く・栄養バランスの良い食事を摂取することができます。特に、大学生活が始まると試験勉強やレポート作成、部活等で夜帰宅するのが遅くなり先輩や友人と外食に行く

機会も増えます。そのため、日々の食事内容が極端に偏ってしまう傾向があるので、是非利用してもらいたいと思います。

次に、生協店舗について紹介したいと思います。蔵本には、食堂横に新しく併設された書籍や文具、白衣等を取り扱う「しょくら」やコンビニのように新商品のお菓子やちょっとした生活用品を取り揃えている「らくら」、以前から運営しているカフェテリア「くらら」があります。「らくら」や「くらら」にはサンドイッチやお弁当、飲料等も販売されています。

大学では主体的に臨むことで楽しく・充実した大学生活を送ることができるので、大学生活をよりよいものにしてくれる大学生協を利用して、実りある大学生活を送って下さい。



部活動・サークル活動について

保健学科4年次 上田 彩矢

部活動・サークルについて紹介します。大学に入学してまず思い浮かぶことといえば「部活動・サークル活動」ですよね。大学には高校と比べて多くの部活・サークルがあるので、初めのうちはどこに入ればよいのかすごく迷うと思います。そんな時は新歓期などに、興味のある部活やサークルに見学に行ってみましょう。同じような部活・サークルでも練習日や時間などが違うので自分にあうものを見つけると良いですよ。

私は今はあまり行けていないのですが、さまざまな活動を通していろんな事を学ぶことができました。まわりの友達はバトミントン、テニス、などさまざまな部活動・サークルに入っています。部活動ならば授業が終わった放課後に練習しに行き、休日は試合や遠征などがあります。本格的にスポーツをしたい方におすすめです。サークルならば部活動よりは活動日が少ないのですが、その分時間に余裕がもてます。部活動やサークルに入ること、先輩、同級生、後輩、他学部の友人などもたくさん作れ、広い人間関係が築けるとともに、



さまざまな活動を通して自分自身の成長にもなります。

2年、3年と学年が上がるにつれて講義や実習の時間が増え、自分の時間の確保が難しくなります。そのため、1年生のうちにさまざまな事に挑戦して欲しいと思います。ぜひ気軽に足を運んでみて下さいね！

学 反 会 活 動

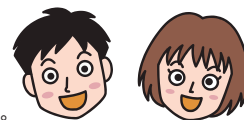
● 運動部

	クラブ名	部長
1	硬式野球部	北川 哲也
2	ソフトテニス部	森 健治
3	ラグビー部	田中 克哉
4	卓球部	香美 祥二
5	柔道部	永廣 信治
6	弓道部	丹黒 章
7	剣道部	久保 宜明
8	準硬式野球部	島田 光生
9	合気道部	上野 淳二
10	水泳部	松香 芳三

● 文化部

	クラブ名	部長
1	軽音楽部	橋本 一郎
2	外国語研究会	船木 真理
3	栄養学研究部	寺尾 純二
4	茶道部	羽地 達次
5	室内楽同好会	赤池 雅史
6	地域医療研究会	谷 憲治
7	TIFMSA(徳島国際医学生連盟)	赤池 雅史
8	ジャグリングサークル	渡辺 浩良

※入部等の問い合わせについては、学務課（学生指導担当：☎088-633-7030）へ連絡してください。



医学部行事予定 (平成26年4月～平成26年9月)



4月4日(金)～10日(木) (6, 7日を除く)
 医学部新入生学科別オリエンテーション
 医学科、医科栄養学科、保健学科
 4月4日(金) 学生定期健康診断
 医学科・医科栄養学科1年次
 4月5日(土) 医学部新入生研修 (於：大塚講堂)
 4月7日(月) 徳島大学入学式、医学部共通新入生オリエンテーション (13:30～大塚講堂)
 4月8日(火) 学生定期健康診断 保健学科1年次

4月11日(金) 新入生授業開始
 4月22日(火)～25日(金)、5月7日(木)、8日(木)
 学生定期健康診断
 医学科・栄養学科・保健学科2年次以上
 8月7日(木)～8日(金)
 徳島大学オープンキャンパス (学部説明会)
 医学科、医科栄養学科、保健学科
 8月8日(金)～ 西日本医科体育大会

外から見る医学部



個の医薬・医療

徳島大学名誉教授（薬理学） 岡 源 郎

超高齢化社会です。これには、食生活や生活様式、生活環境などの変化がかかわっていますが、それにも増して医学・医療の進歩とともに、日々世に出る薬の果たしてきた役割も大きいものがあります。「薬なくして医療はありえない」といっても過言ではありません。孫子の兵法に「敵を識り、己を識らば、百戦すとも危うからず」というのがあります。これを医療の場にあてはめてみますと、「敵」とは「病」であり、己とは「薬」ではないでしょうか。薬という武器について、その働き（性能）、切れ味、力の限界、副作用（危険性）など知っておくことは、大切なことです。私たちの体の中での薬の働き方を理解することは、同時に私たちの体の生理機能（生理反応）を理解することにもつながります。

なぜ病気になり易いのだろうか。なぜ薬の効き方に違いがあるのだろうか。これらは個人のもつ遺伝子の違いによることが分ってきました。病気には、さまざまな遺伝要因と環境要因の相互作用でおきるものが少なくないのです。がんやいわゆる生活習慣病といわれている高血圧症、心疾患、糖尿病、アレルギー、痴呆症などの遺伝要因の探索も大々的に進められています。重要課題でもあります。

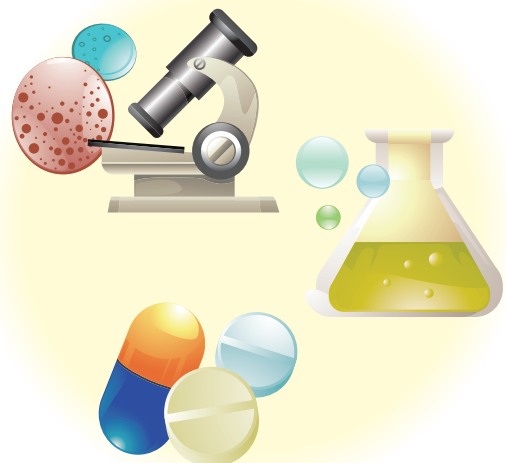
薬の効き方も、時には効き過ぎたり、逆に効かなかったりします。また人によっては副作用の出かたも違ってきます。これらも遺伝的背景があることが分ってきました。

アルコールに強い人、弱い人がいます。アルコールは、薬と同じく体にとっては異物ですので、代謝酵素によって代謝（分解）されます。この代謝酵素（アルデヒド脱水素酵素）の働きの弱い人は、アルコールに弱いのです。酵素タンパクを構成している多くのアミノ酸のうち、たった一つのアミノ酸が、グルタミン酸からリジンに変わった形の酵素が作られているのです。日本人では約40%の人が、アルコールに弱いと言われています。これと同じようなことが、肝臓にある薬の代謝酵素でもみられ、薬によっては代謝酵素の活性の低い人が約25～30%いることが分ってきました。このような人は普通の人よりも薬の代謝が

遅く、それだけ薬の血中濃度が高く維持され、作用が強く出たり、副作用が出る可能性もあるのです。

薬の作用部位での感受性も遺伝子によって作られるタンパク質の違いによることが知られています。アドレナリンが作用するベータ2受容体は、血管平滑筋や気管支平滑筋を広げる働きがありますが、その164番目のアミノ酸が、スレオニンからイソロイシンに変わったものは、アドレナリンに対する親和性が低く、そのため高血圧や気管支喘息になりやすいのです。またベータ2刺激薬の効き目も弱いのです。高血圧の人にも塩分の感受性の高い人と低い人がいます。高血圧の成因物質であるアンジオテンシノーゲンの235番目のアミノ酸が、メチオニンからスレオニンに変わっている人は、塩分に対する感受性が高く、これらの人は塩分を制限するだけで、高血圧が改善されることが知られています。

人の全遺伝子情報（ゲノム）を解析して、病気や体質の原因になる遺伝子を突き止め、その情報をもとに個人個人に適した病気の予防や薬の開発（ゲノム創薬）、そして投薬・治療（オーダーメイド医療）が、今後期待されているのです。



徳島医学会報告

■ 第248回徳島医学会学術集会

眼科学分野 宮本 龍 郎

2月16日(日)に大塚講堂にて第248回徳島医学会を開催いたしました。前々日に大雪が降り開催が危ぶまれましたが、当日は晴天となり無事に開催することができました。

午前中はメインホールで教授就任記念講演会が行われました。皮膚科学の久保宜明先生は「皮膚発癌機構と分子標的治療薬」というタイトルで有棘細胞癌と悪性黒色腫におけるゲノム異常についてのお話を分かりやすく御紹介して頂きました。子どもの保健・看護学分野の森健治教授は、「自閉症の脳画像研究」というタイトルで、プロトンMRSを用いた自閉症症例のアミノ酸濃度について、症例の画像を用いて詳細に御説明頂きました。



その後ロビーで一般17題、若手18題のポスターセッションがホールで行われ活発な討議がなされました。

午後は第31回徳島医学会賞を受賞された地域脳神経外科診療部の影治照喜先生が「スマートフォンとインターネットを用いた徳島県立海部病院遠隔医療システム(k-support)の導入」というタイトルで、医療過疎となっている海部地域にICTを用いた遠隔診療支援システムの導入について、事例を含め御講演頂きました。同

じく徳島医学会賞を受賞された徳島市医師会の中瀬勝則先生は、「徳島市医師会のCOPD対策」というタイトルで、COPD診療の重要性をインパクトあるスライドを使用し熱弁をふるって頂きました。



公開シンポジウムでは、「再生医療とコンピュータサイエンス」と銘打ち、3名のシンポジストによる御講演をいただきました。眼科の香留崇先生は加齢黄斑変性症に対するこれまでの治療の変遷とiPS細胞などを使った再生医療について御紹介して頂きました。東京都医学総合研究所の原田高幸先生は、視神経再生療法についてモデルマウスを使った御講演をしていただきました。理化学研究所の横田秀夫先生は、コンピュータシミュレーションを使った臓器設計やシミュレータについて動画を用いて御講演頂きました。

個人的な感想ですが、研修医の先生の堂々としたポスター発表や質疑応答には目を見張るものがありました。自分自身が研修医の頃、こんなに自信を持って学会発表できていたかどうか・・・。徳島医学会は若手の先生のアツいハートによって成り立っているのだなと改めて痛感いたしました。

◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

岡 奨 学 賞

高橋 徹行 (環境病理学分野 助教)
安倍 知紀 (栄養生命科学教育部 博士後期課程3年)
* 医学部、疾患酵素学研究センター、疾患プロテオゲノム研究センターにおいて、基礎医学における研究成果が顕著な人を表彰する賞です。

■ 第248回徳島医学会学術集会(平成26年2月16日)において、第32回徳島医学会賞及び第11回若手奨励賞の受賞者が選考されました。

徳島医学会賞

大 学
石川 大地 (徳島大学病院消化器・移植外科)
＜肝細胞癌におけるSTAT4発現は細胞性免疫の制御に関与し予後因子となり得る＞

医 師 会
豊田 健二 (徳島市医師会)
＜徳島市医師会における在宅医療への取り組み＞

若手奨励賞

松本 和久 (徳島大学病院 卒後臨床研修センター)
＜シロリムス溶出ステント留置7年後に初めて造影剤ステント周囲滲み出し像を認めた一例＞

今田 久美子 (徳島大学病院 卒後臨床研修センター)
＜心不全を合併した腎血管性高血圧に対する経皮的腎動脈形成術の有効性＞

宮内 雅弘 (徳島大学病院 卒後臨床研修センター)
＜Trastuzumab単剤療法によりpartial response(PR)が得られた切除不能進行胃癌の1例＞

医学部優秀教育賞

医学優秀教育賞 安倍 正博 (生体情報内科学分野 准教授)	保健学優秀教育賞 桑村 由美 (療養回復ケア看護学分野 助教)
栄養学優秀教育賞 真板 綾子 (生体栄養学分野 助教)	* 医学科、栄養学科、保健学科の教育及び学生指導に貢献した人を表彰する賞です。

Best Teacher of the Year 2013 賞

医 学 科 澤田 直樹 (機能解剖学分野 助教)	栄養学科 奥村 仙示 (臨床栄養学分野 助教)
志内 哲也 (統合生理学分野 講師)	保健学科 安井 敏之 (生殖補助医療学分野 教授)

* Best Teacher of the Year 賞は学生の投票で決まる賞です。



医学部優秀教育賞・Best Teacher of the Year 2013 受賞者
後列左から：澤田直樹、志内哲也、有持秀喜、真板綾子
前列左から：奥村仙示、安井敏之、吉原医学部長、安倍正博、桑村由美 (敬称略)

蔵 本 祭

第29回蔵本祭を終えて

第29回蔵本祭実行委員長 医学科5年次 村上拓也

第29回蔵本祭も来場者数800名超という大盛況の元無事終わりました。新しい企画も成功を取め、また既存の企画もより良い企画になりました。この場をお借りして先生方、大学職員の方々に御礼を申し上げたいと思います。本当にお世話になりました。また、近隣住民の方々に徳島大学のことを知って頂くという目的も果たせました。この度の学祭において、沢山の方々

のお世話になり、各企画を成功させる為に学外の方々とも沢山関わる中で人と人の繋がりや協力によって生まれる力の大きさを実行委員一同ひしひしと感じました。学園祭の醍醐味である、有志による企画も沢山あり蔵本祭を盛り上げてくれました。まさに蔵本キャンパスが一丸となってこそ生まれた成功でした。



「楽楽～spark・laugh～」のテーマで行われた学園祭は決して楽なものではありませんでしたが、本来込めていた「沢山の楽しいを生み出したい」はしっかりと実現することができました。この経験は実行委員一同の一生の思い出となりました。

新入生の皆さん、蔵本キャンパスにはこのような沢山の思い出を作るチャンスが溢れています。是非、こういった行事に積極的に参加してください。そして、沢山の思い出を作り上げていきましょう！

栄養学展を終えて

第29回蔵本祭栄養学展委員長 栄養学科4年次 福田泰士

このたび、われわれ栄養学科2・3年生は、希望者合計27名を募り、「栄養学展」を開催させていただきました。栄養学展は、毎年恒例のイベントで、来て下さるお客さんにどのようなテーマの食事が興味をもってもらえるかを話し合い、そのテーマにあった食事、ポスター、装飾を行っています。

今年度は、「メタボリックシンドローム」が人々の話題に上がることが多く、体型を気にする風潮もあるということで、『健康増進』にテーマを決定いたしました。

私たちの計画は半年前の5月からスタートし、『健康増進』という大きなテーマを、一般の方々にどのようにわかりやすく栄養学科生らしく伝えるか考えました。

また、この栄養展に来ていただいた方に、普段の生活からでも自分の健康について意識を高めていけるような工夫も盛り込みました。

栄養展当日は、予想よりも多くの来展があり、連日整理券は

配布開始1時間半程度で配り終えることができました。

「美味しかった」「家でも作りたい」といった感想から、味付けや量、提供時間に関する要望もたくさんいただき、栄養学科生として一般の方の生の意見をきけるともいい機会となりました。

今年度で栄養学科も50周年を迎え、学科名も「医科栄養学科」に新しく生まれ変わります。これからさらに重要になってくる栄養学という分野を引っ張っていけるように勉強に励んでいきたいと思ひます。

最後に、栄養学展に来て下さった皆様、及び運営に協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。



第29回蔵本祭模擬病院委員長 保健学科看護学専攻3年次 松本充鈴

今年の模擬病院は2日間で、昨年を上回る約500の方に来場していただきました。恒例となっている手浴を今年も実施することができ、さらに新企画として手洗い教室も開催することができました。また、徳島保健所の企画である「親子はぐくみ



事業」として妊婦体験や赤ちゃん抱っこ体験も行いました。学生だけでなく地元の方々にも多数お越しいただきました。中には模擬病院に毎年足を運ん

でくださっているという方も多く、そういった方から「今年も良かったよ。」というお声をいただいた時には、とても嬉しい気持ちになりました。

今年も無事に模擬病院を終えることができ、アンケートではお褒めの言葉をたくさんいただきました。たくさんの方と関わることができたのは、私たち学生にとって良い経験になりました。まだ実習経験も少ない私たちでしたので、至らない点もたくさんあったと思ひます。今回見出した改善すべき点は、次回の模擬病院をより良いものにするために後輩たちに引継ぎたいと思ひます。そして、この良き経験を私たちの今後の学習や実習に生かしていきたいと思ひます。

また、ご指導いただいた先生方をはじめ、先輩方、模擬病院委員のみなさん、および蔵本祭実行委員のみなさんには大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

数字で見る医学部

～平成26年3月卒業者の進路状況～

H 26.2 現在

医 学 科	
進 路 先	合計
徳島大学病院	18
大阪大学病院	5
徳島県立中央病院	4
徳島赤十字病院	4
徳島市民病院	4
高知赤十字病院	3
高松赤十字病院	2
大阪市立総合医療センター	2
済生会千里病院	2
神鋼病院	2
浦添総合病院	2
岸和田市民病院	2
神戸大学医学部附属病院	2
近畿中央病院	1
健康保険鳴門病院	1
麻植協同病院	1
北九州総合病院	1
斗南病院	1
済生会野江病院	1
国立病院機構 名古屋医療センター	1
沖縄協同病院	1
県立西宮病院	1
手稲溪仁会病院	1
四国こどもとおとなの医療センター	1
りんくう総合医療センター	1
九州厚生年金病院	1
天理よろづ相談所病院	1
赤穂中央病院	1
板橋中央総合病院	1
名古屋市立大学病院	1
京都医療センター	1
東葛病院	1
神戸西市民病院	1
兵庫県立尼崎病院	1
大阪労災病院	1
ベルランド総合病院	1
兵庫県立柏原病院	1
虎の門病院	1
今村病院分院	1
近森病院	1
製鉄記念広畑病院	1
吹田市民病院	1
府中病院	1
日本医科大学病院	1
札幌東徳洲会病院	1
洛和会丸太町病院	1
箕面市立病院	1
長崎大学病院	1
姫路聖マリア病院	1
練馬総合病院	1
倉敷中央病院	1
和歌山県立医科大学附属病院	1
湘南鎌倉総合病院	1
常滑市民病院	1
神戸市立医療センター西市民病院	1
国立病院機構 神戸医療センター	1
済生会福岡総合病院	1
済生会松山病院	1
国立病院機構広島西医療センター	1
広島赤十字原爆病院	1
兵庫医科大学病院	1
合 計	100

栄 養 学 科	
進 路 先	合計
株式会社市岡製菓(ハレルヤ株式会社)	2
味の素 冷凍食品株式会社	1
徳島県内病院	1
西宮協立脳神経病院	1
友栄食品興業株式会社	1
社会福祉法人 建昌福祉会	1
杏林製菓株式会社	1
医療法人社団 成仁病院	1
南淡路病院	1
プライムデリカ	1
社会福祉法人 四天王寺福祉事業団	1
中国中央病院	1
扶桑薬品工業株式会社	1
三重県栄養教諭	1
フレンド商会	1
独立行政法人 国立病院機構 呉医療センター	1
株式会社浜学園	1
広島県福祉事業団	1
登美ヶ丘リハビリテーション病院	1
保育園の栄養士	1
株式会社グローバル・アシスト	1
馬場記念病院	1
小 計	23
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院栄養生命科学教育部	14
徳島大学大学院医科学教育部	1
小 計	15
未定	10
合 計	48

保健学科：看護学専攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	19
神戸大学医学部附属病院	17
大阪大学医学部附属病院	3
大阪医科大学附属病院	3
岡山大学病院	2
兵庫医科大学病院	2
大阪市立大学医学部附属病院	1
独立行政法人労働者健康福祉機構 大阪労災病院	1
北野病院	1
九州大学病院	1
近畿中央病院	1
倉敷中央病院	1
慶応義塾大学病院	1
高知大学医学部附属病院	1
神戸市医療センター	1
神戸市立医療センター中央病院	1
佐賀大学病院	1
市立芦屋病院	1
宝塚病院	1
東京大学医学部附属病院	1
徳島健生病院	1
名古屋市立大学病院	1
日本赤十字社和歌山医療センター	1
山口大学医学部附属病院	1
愛媛大学医学部附属病院	1
長崎大学病院	1
徳島県	5
岡山県	1
岡山市	1
沖縄県	1

北島町	1
佐那河内村	1
奈良県	1
小 計	77
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院保健科学教育部	5
北里大学大学院看護学研究科	1
小 計	6
未定	4
合 計	87

保健学科：放射線技術科学専攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	3
愛媛大学病院	2
旭東病院	1
飯塚病院	1
今村病院分院	1
大阪赤十字病院	1
唐津市民病院	1
倉敷中央病院	1
高知大学病院	1
高槻赤十字病院	1
高松赤十字病院	1
徳島赤十字病院	1
長崎大学病院	1
奈良県立大学病院	1
光生病院	1
米盛病院	1
愛媛県	2
香川県	1
名古屋市	1
兵庫県	1
小 計	24
大 学 院 進 学	
徳島大学大学院保健科学教育部	6
大阪大学大学院	2
小 計	8
未定	7
合 計	39

保健学科：検査技術科学専攻	
進 路 先	合計
徳島大学病院	1
伊勢赤十字病院	1
医療法人オーク会 オーク住吉産婦人科	1
近畿大学附属病院	1
近畿中央病院	1
国立病院奈良医療センター	1
宝塚市立病院	1
つるぎ町立半田病院	1
徳島市民病院	1
豊橋市民病院	1
松下記念病院	1
山口大学附属病院	1
徳島県	2
宮崎県	1
小 計	15
大 学 院 進 学	
大阪大学大学院生命機能研究科	1
大阪大学大学院微生物病研究所	1
小 計	2
未定	1
合 計	18

学遊抄 茶道部の頃

医用理工学分野 長 篠 博 文

本学工学部電気工学科に入学して初めての夏休みはまるまる2か月、時間をもて余していた。そんな時に同じ学科の友人から「茶道部」に入った、と聞いた。貧乏学生の私はそれまで茶道なんぞには全く縁がなかったが、友人がやっているのなら自分もやってみようという気になった。茶道とは言っても部活動の経費は安かった。

今は跡形もないが、当時は教育学部（現総合科学部）の北の端に非常勤講師宿泊用の「洗心苑」という家屋があり、週1回はそこに、徳島では重鎮の先生にお越しいただいて教えを受けていた。その建物には八畳二間の宿泊用和室に加えて、立派な四畳半の茶室があった。庭も素晴らしく、つくばいもあり庭からにじり口で茶室に入れるようになっていた。しかし、普通の練習（稽古とは言わなかった）は華道部と茶道部がそれぞれ八畳の和室を使った。茶室は八畳に入りきれない部員のたまり場になり、お茶に関係のない話に興じて騒がしく、茶道の雰囲気には程遠かった。それでも、その先生はとても温厚な方で、いつもにこにこ我々を見守ってくれた。先生のお宅に個人的に習いに行き、免状を次々取得する部員もいたが、私にその気はなかった。それでも薄茶・濃茶の風炉の点前（てまえ）や、さまざまな位置の炉の点前、夏の洗い茶巾や10月頃の中置、小棚、花月や数茶、茶箱や立礼、いろいろな道具の扱いなど、免状がなくても学べるものがたくさんあった。多種多様なことから教わることを通じて、茶の湯の本質に近づけた気がする。



三大学合同初釜で点前をする筆者、円徳寺（徳島市寺町）にて、1971年1月17日

入部当時の茶道部は男性の方が多いという珍しい時代だったが、多くの女性とも話すことができ、彼女らがどのように考えをめぐらせるのかを知ることができた。中心的なメンバーとして活動することになり、先輩・後輩諸氏には世間知らずで迷惑をかけたが、おかげで組織運営の経験をさせてもらい、不得意だった人間関係の処し方もましになった。

明治以降、茶の湯はもっぱら女性のものになり果てているが、戦国時代は名だたる大名・武将・豪商が競って励んだ最先端の文化だった。礼儀作法はもとより、禅、わび・さびの思想、書画、花、香、菓子、料理、陶芸、工芸、建築、庭園等、日本固有の文化が凝縮されている。フロリダアトランティック大学で1年間共同研究を行ったときにも、日本から持参した道具で研究室の方々に薄茶をふるまい、親睦を深めるとともに日本文化に関する話題に花を咲かせた。日本人学生の皆さんには、グローバル化の現代だからこそ母国をよく知るため、その文化や武道などのうち何かに親しむことをお勧めする。

卒業研究・大学院での研究に忙しくなると、お茶からは遠ざかってしまった。幸い本学の助手になれたので、放ってはおけないと思い、OB会を設立して部の道具の充実や部員・OBの親睦を図った。後輩が引き継いでくれていたが、数年前に解散せざるを得なくなって残念である。茶道部から秋の茶会の連絡をもらうので、時々参加する程度のつきあいになった。

そもそも大学進学に当たって本学工学部を目指したのは、家庭の事情から大学に進むなら徳島しかないという状況で、人間関係がまるで苦手だったので、工学部なら一番人間を相手にしないで済むだろうという理由からだった。こういう浅はかな動機で入学したわけだから、工学的センスではかなわない、と思った級友がたくさんいた。彼らはNTT、日立、三菱電機などに就職して活躍した。そんな私でも、なんとかお役に立ちつつ来年の定年を迎えられそうなのは、いくらかでも「人間力」の幅を広げてくれた茶道部のおかげでもあろう。



寄附者紹介

白菊会顧問 美馬準一様より、徳島大学医学部に対し、平成25年12月19日に100万円の御寄附をいただきました。誠にありがとうございました。



新任教職員あいさつ



運動機能外科学分野 教授 西 良 浩 一

平成25年11月1日付で、運動機能外科学分野を担当させていただくことになりました。香川県高松市出身(高松高校)で、昭和63年徳島大学卒業後、整形外科(当時)教室に入局しました。大学時代は器械体操部に所属しておりました。常三島キャンパスで月面宙返りを目標に練習していたことが昨日の様です。現在の専門領域は、脊椎・脊髄外科学およびスポーツ医学です。得意な手術は脊椎・内視鏡手術です。特に局所麻酔・8mm切開で行う経皮的内視鏡手術 PED法を行える医師は国内でも20名程度と限られており、私の十八番です。また、内固定剤を使用した矯正・骨切り・固定手術も積極的に行っています。

スポーツ医学は1980年代以降、当教室のメインテーマの一つです。当初は少年野球、少年サッカーなど、地元の子供たちの障害を中心に行ってききましたが、現在、トップアスリートも多く当院を訪れております。私は腰痛専門スポーツドクターです。教室には、関節スポーツドクターもおります。現在、脊椎・関節両面からアスリートのトータルケアができる施設は国内でも限定されております。教育面では、本年よりオリンピック選手(ハンマー投げ・室伏由佳先生、競泳・純純夏先生)を非常勤講師として招聘し、トップアスリートの立場から医学生・研修医へスポーツ医学の重要性を講義して頂く予定です。徳島大学がスポーツ医学およびアスリート治療のメッカとなるよう尽力致します。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



地域総合医療学分野 特任教授 岡 久 稔 也

平成25年12月1日付けで地域総合医療学分野の特任教授に就任いたしました。私は徳島県阿南市出身で、徳島大学医学部バレーボール部に属していました。昭和62年に卒業後、徳島大学第二内科に入局し、消化器内科医として炎症性腸疾患や急性膵炎を中心に診療、研究に携わって参りました。また、米国テキサスメディカルセンター内のベイラー医科大学人工臓器開発センター(能勢之彦研究室)留学中の経験を活かし、医工連携、産学連携によるLEDの医療応用を含めた次世代アフェリシスシステムや医療システムの研究開発を行っております。地域総合医療学分野は、愛媛県川之江町の四国中央病院の診療支援を行いつつ、総合医療学及び地域医療

学に関する研究並びに医学生や若手医師等の教育を行い、将来を担う総合的な診療を行うことのできる人材育成に寄与することを目的としています。公立学校共済組合員のための職域病院として設立された四国中央病院は、内視鏡検査を含めた総合内科的研修が可能な人気のある病院でしたが、臨床研修医制度導入後の医師不足によって深刻な影響を受けています。2名の特任助教と一緒に、色々な方々と力を合わせ、創意工夫を重ねることによって、患者さんや家族の立場に立った安全で安心できる質の高い医療を提供する活気溢れる明るい人材の育成を行っていく所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第60回徳島大学解剖体慰霊祭



事務部学務課

平成25年10月25日(金)15時から徳島大学大塚講堂において、第60回徳島大学解剖体慰霊祭が開催され、御遺族、白菊会会員、医学部・歯学部・病院教職員、学生等関係者560人が参列いたしました。献体者の霊に黙祷を捧げた後、医学部長、歯学部長をはじめとする関係者が追悼の辞を述べ、その後参列者全員が祭壇に白菊を献花し、系統解剖、病理解剖のために献体してくださった方々の亡き御霊6,083柱の御冥福をお祈りしました。献体運動等の活動により献体に対する世間の理解が、ますます深まってきております。今後も引き続き献体に対するご理解とご協力をお願いいたします。

退職者ご挨拶



顕微解剖学分野 教授 石村 和 敬

3月31日付で定年退職いたしました。着任は平成元年（1989年）12月1日ですので、本学での在職期間は24年4ヶ月。母校の広島大学で始まった解剖学教員としての生活37年間の3分の2を本学で過ごした計算です。

教育については「手を抜かない」という姿勢で通しました。学生諸君にとってはしんどかったかも知れませんが、研究は「神経ステロイド」をテーマにやりました。業績的には少々不足だったと反省しています。それでも何とか格好がついたのは優秀な

教室員のおかげで、感謝一杯です。

思いがけず母校の先輩から声がかかり、4月から広島市の私立大学に勤務することになりましたが、徳島は人生で最も長く暮らした街であり、何より孫がいますので度々やってくるようになります。ただし、徳島に戻っても大学の皆さんにはご迷惑をおかけしないようにいたします。

学生諸君の大成と、徳島大学医学部の今後の発展を祈念して退職のご挨拶といたします。



環境病理学分野 教授 泉 啓 介

病理学第二講座、環境病理学分野を通じて長年にわたり教室運営を担当させていただいた。その間実験病理学的研究と病理診断・病理解剖のバランスを取りながら教室をまとめてきたつもりであるが、できたこと、できなかったことを考えてみると後者の方が遙かに多い。私自身は化学発がんを中心に研究を進めてきたが、現在の教室員はそれぞれがん転移、がん治療、気管支喘息を研究テーマに選んでいる。いずれも病気の分子機構解明を目指す研究であり今後の成果に

期待している。最近では病理診断の負担が増し、大学病院の病理診断と術中迅速診断をそれぞれ週2日担当しているため、大学病院の病理検体の30%弱の診断を行っていることになる。就任当時はそのうち臨床医が増えすぎて基礎医学分野に入ってくる卒業生が増えると思っていたが、現実とは異なっていた。私個人の責任もあるが、9年前に始まった研修医制度の開始は泣き面に蜂であった。診断の高度化に対応出来る優秀な病理医育成も今後の課題である。これまでの多くの皆様のご支援に感謝します。



生体情報内科学分野 教授 松本 俊 夫

平成8年12月に徳島大学医学部第1内科に赴任して以来、17年余りに亘りお世話になりどうも有り難うございました。この間、内科学教室の再編が進み、臨床神経学や循環器内科学教室が新設されると共に、教室には血液内科学と内分泌代謝学の2領域のみが残ることとなりました。平成13年には大学院独立専攻プロテオミクス医科学専攻に臨床教室で唯一参画し、平成15年度からは21世紀COEに採択されました。平成16年には大学院部局化されヘルスバイオサイエンス研究部が設立され教室名も生体情報内科学分野となりました。

した。同年より卒後初期臨床研修が必修化され全国マッチング制度の導入により大幅な入局者の減少に曝される苦難の時代を迎えました。その中で平成18年から2年余り医学部長として学部運営にも携わらせて頂きました。平成22年からは糖尿病臨床・研究開発センターを設立し糖尿病の臨床・研究の充実に尽力して参りました。定年を迎えることとなりましたが、退職後も新設の藤井節郎記念医科学センターにしばらく勤務させて頂くこととなりました。永年のご支援とご交誼に深く感謝申し上げますと共に、徳島大学の益々のご発展を祈念しております。



形成外科学分野 教授 中西 秀 樹

徳島大学を昭和49年に卒業して、武田克之教授の率いる皮膚科教室に入局しました。武田先生の命で昭和51年から日本の形成外科のメッカである東京警察病院形成外科に7年間国内留学させていただきました。昔から運、鈍、根と言われますが、新しい学問である形成外科が認知されるにはかなりの困難を伴います。形成外科分野は広く、他科との競合も多く抵抗も多いので鈍感力が役に立ちました。運は、学長になられた武田先生と日本の形成外科のパイオニアであられる大森清一先生の二人の偉大な恩師に巡り合えたことです。

また、全科の協力の下に平成8年に形成外科診療科の開設、平成15年からは講座に昇格いたしました。最後に形成外科が独立するか否かわからない時から多くの仲間が集まり、18名の学位授与者と37名の専門医を養成できたことです。彼らの頑張りや、日本形成外科内視鏡学会、日本頭蓋・顎顔面外科学会、日本マイクロサージャリー学会、日韓形成外科学会、日本形成外科学術集会総会の主催と、平成21年には日本形成外科学会理事長を拝命し多彩な経験をさせていただきました。最後に本学のさらなる発展を祈念いたします。



臨床薬学分野 水口 和生

42年間の長きにわたりお世話になり本当に有難うございました。

私は1997年8月1日に高杉益充教授の後任として、徳島大学医学部附属病院薬剤部を担当しました。就任当時徳島大学薬学部出身者としては、初の国立大学医学部附属病院薬剤部教授・薬剤部長であり責任の重さを人一倍痛感したものです。以来まさに光陰矢の如く16年8か月が過ぎたように思います。この間医療を取り巻く環境が大きく変化し、臨床薬剤業務に従事する薬剤師を養成することを主目的とした大学院医療薬学専攻（博士課程）が設置され、薬剤部は教育、研究面では臨床薬理学講座（薬学部協力講座）として位置付けられました。そのため医学部の学生さ

んには少し馴染みが薄かったと思います。後に医学部附属病院と歯学部附属病院が統合、国立大学の法人化、医歯薬大学院の統合によりヘルスバイオサイエンス研究部臨床薬学分野となりました。私たちの分野は医学と薬学の接点として、医師・薬剤師教育の一端を担ってきました。研究室で医学部、薬学部の学生さんが仲良く実験している姿は将来のチーム医療を想像させるものであり良い思い出です。

最後になりますが、皆様方のご多幸とご健勝をお祈りいたしますとともに、これまで以上に徳島大学病院薬剤部並びに臨床薬学分野のご支援ご指導をお願いして退任の御挨拶とさせていただきます。



臨床栄養学分野 教授 武田 英二

昭和49年に徳島大学医学部医学科を卒業し、小児科では18年（2年間は米国）、臨床栄養学教室で22年間、一貫して徳島大学でお世話になりました。小児科では

主に先天性代謝異常症の病態解析および栄養療法についての勉強、米国留学では癌研究、とくに核酸合成阻害剤の解析を行いました。これらの診療および研究を通して、栄養代謝調節と栄養療法の意義について基盤を構築しました。栄養学科では、(1)カルシウム・リン・ビタミンD栄養学と骨・腎臓・血管・脳疾患、(2)食後高血糖を抑制する献立・流動食開発と糖尿病・肥

満・ストレス制御に関する研究成果を得ることができました。栄養学科長を2回務め栄養学科棟の改修、大学院ヘルスバイオサイエンス研究部栄養生命科学教育部の設置、21世紀COEプログラムの拠点リーダー、等を担当させていただきました。共同研究者、学生、研究費に恵まれ、約60名の博士学位取得者を輩出できたこと、平成26年4月から医科栄養学科へ展開を実現できたことで、ある程度の責任を果たせたと思っています。これからも出来る限り徳島大学の発展および管理栄養士育成について支援したいと思っています。長い間、お世話になり本当に有難うございました。



地域看護学分野 教授 多田 敏子

昭和54年4月に徳島大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程に赴任して以来35年間、徳島大学で看護教育に従事してまいりました。教育学部改組に伴い、

一時大学開放実践センターで生涯学習に携わり、平成元年に開設されたばかりの医療技術短期大学部看護学専攻に異動してまいりました。その後、4年制課程の設置、大学院修士課程、博士課程の準備・教育に携わってまいりました。その間に多くの学生に出会い、振り返ってみれば卒業生は看護教育や臨床で第

一線を担っています。研究課題も学生と共に探索し、生活モデルを中心に1次予防に取り組んできました。また、平成23年度から2年間、当時の医学部長玉置俊晃先生の下で保健学科長を務めさせていただきました。医学部長や学長に直接お話しする機会を得て、学生を大切にし、徳島大学の将来のために全力投球するお姿に感銘を受けました。

最後に、国立大学改革期に徳島大学がさらに飛躍されることを祈念するとともに、これまで温かく支えてくださいました方々に心より感謝申し上げます。

新任准教授紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属
H26. 2. 1	昇任	六車直樹	消化器内科学



◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

中 田 賞



第60回医学科卒業生(平成26年3月卒業)
黒川 憲

この度は名誉ある中田賞をいただき、大変光栄に存じます。この9年間、医学部での講義や実習に加え、テキサス大学でのサマリーサーチプログラムや大学院MD-PhDコースなどの制度により、多くの方々に支えていただきながら幅広い経験をすることができました。熱心に指導していただいた先生方、こうした新しい制度の整備に尽力されている先生方、共に過ごした友人、家族に心から感謝しております。今後もこの受賞を励みとし、医療・医学に貢献できるよう、日々精進してまいります。

児 玉 賞



第47回栄養学科卒業生(平成26年3月卒業)
庄野 裕美

この度は、児玉賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に感じております。4年間を通じてご指導いただいた先生方をはじめ、これまで支えてくださいました多くの方々から心から感謝申し上げます。今後もこの受賞を励みとし、初心を忘れず日々精進してまいりたいと思っております。本当にありがとうございました。

看護学専攻賞



第9回看護学専攻卒業生(平成26年3月卒業)
大野 友希那

この度は看護学専攻賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に感じております。これもひとえに4年間温かくご指導して下さった先生方をはじめ、共に学び合ってきた友人や支えてくれた家族のおかげであると感じております。大学では多くの経験をすることができ、自分自身をよりいっそう成長させることができました。今後もこの経験を活かし、看護師として日々の努力を惜しまないようにして参りたいと思っております。

放射線技術科学専攻賞



第9回放射線技術科学専攻卒業生(平成26年3月卒業)
小西 友梨

この度は、名誉ある放射線技術科学専攻賞をいただき大変光栄に感じております。親身にご指導して下さった先生方をはじめ、支えてくれた家族や友人に心から感謝致します。大学生活は多くの出会いの中で様々な経験を積み、充実した日々を送ることができました。この受賞を励みとし、大学で学んだ知識や経験を活かし医療の現場に貢献してまいりたいと思っております。

す だ ち 賞



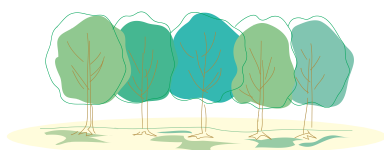
第9回検査技術科学専攻卒業生(平成26年3月卒業)
林 智弘

この度は、すだち賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に感じております。4年間温かくご指導くださった先生方をはじめ、支えてくれた家族や友人のお陰で充実した大学生活を送ることができ、深く感謝しております。今後もこの賞をさらなる励みとし、臨床検査技師として医療の現場に貢献できるよう日々精進して参りたいと思っております。

医学部優秀学生賞

医科学教育部博士課程4年次：小西健史
栄養生命科学教育部博士前期課程2年次：香川知博
医 学 科 3 年 次：宮原圭吾
医 学 科 4 年 次：安岡紗哉香
医 学 科 5 年 次：前田悠作
蔵本合気道部：武原悠花子(外5名)
保健学科看護学専攻4年次：加納温子
保健学科看護学専攻4年次：竹村志穂
保健学科放射線技術科学専攻2年次：紀本夏実
保健学科放射線技術科学専攻4年次：竹上和希

※各種活動等において顕著な功績があった学生又は学生団体を表彰する賞です。(注：年次は選考時のものです。)



編集後記



ソチオリンピックが終わったが、おじさんのアイドル浅田真央さんの頑張りには頭が下がる。結果が良かったから言うわけではないが、失敗覚悟で3回転半をプログラムから削らなかつたことが偉い。思いやりに欠ける森元首相の発言をたった一言で解決したのが偉い。そして上村愛子さんの挑戦し続ける姿勢にも頭が下がる。

一番だけが人生ではない。初志貫徹。(泉 啓介)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会
広報委員 森口博基(委員長)、泉 啓介、安友康二、三田村佳典、酒井 徹、大塚秀樹、米原壽男、堀 貴洋、梶浦大資、上田彩矢

本誌へのご意見・ご要望は、(総務係)E-mail:isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp までお願いします。
なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel:088-633-9118 Fax:088-633-9028 URL http://www.tokushima-u.ac.jp/med/